

第2学年 生活科学習指導案

指導者 2年3組
2年4組

展開場所 アリーナ

1 単元名 「町のすてき」ちょうさい～見たい！知りた～い！伝え隊！～
内容（3）「地域と生活」（4）「公共物や公共施設の利用」

2 単元について

子供の実態と思いや願い

1年生では、多くの子供たちが生活科の学習を楽しんでいると感じ、学んだことを学校以外の場所でも役立てられると考えている。実際に、植物を栽培して料理をしたり、風を利用したおもちゃ作りをしたりするなど、意欲的な態度が多く見られる。

2年生になり、学校や家庭を中心とした生活から、自分達の地域へと生活の場が広がった。実態調査をすると、多くの子供たちが自分の住む町や人について好きと答えているが、地域をよく知らないため「好きではない」と答えた子供が8%いた。さらに、自分の住む町のお気に入りの場所に、「自分や友達の家」が挙げられ、「公民館」や「保育所」などの公共施設や近くのお店、そこで働く人などへは目が向けられず、地域との関わりが希薄であることが分かった。また、地域の人に自分から質問したり挨拶したりすること、自分の町を探検したり調べたりすることに対して、消極的な子供も少なくない。その反面、子供たちが行ってみたい場所として、「駅」や「公民館」、「保育所」や「公園」、「店」など様々な場所が挙げられた。つまり、自分の住む町やそこで働く人について興味や関心があるものの、どう関わるとよいか分からないことが考えられる。そこで、自分の興味のある場所へ探検に行き、諸感覚を使ってそこで働く人や場所のよさを発見し、交流を深められるような活動の計画を工夫していきたい。

単元設定の価値

子供の実態にある「地域との関わりが希薄」という点を受け、自分の生活している地域には素敵なものや場所があることを知り、そこで暮らしている人々の存在に気付くことで、学区の魅力に迫らせたい。

本単元では、小学校学習指導要領の（3）（4）を受け、地域に関わる活動を通してそれらのよさや特徴を見付け、親しみや愛着をもちながら、地域の中での自分の適切な関わり方を身につけることを目指している。そこで、まず、自分の生活している学区にはどのような自然や公共物・公共の施設があるのかを通学路マップや学区地図にまとめる。自分の行ったことのない場所や気付かなかった魅力を知ること、「もっと探検してみたい。」「自分で調べてみたい。」という意欲を高めさせたい。次に、学区内で生活している人や働いている人、自分たちの身の安全を見守ってくれている人の存在にも気付かせ、その人たちの暮らしや思いを想像することで、「直接会って話を聞いてみたい。」という気持ちを育てたい。町探検を通して、様々な場所や人と、自分がどのように関わっているのかに目を向けることで、自分が町の一員であることに気付き、地域に親しみや愛着、暮らしを支えてくれている人へのあこがれを抱かせたい。

であい

- ・地域で生活している人に出会い、様々な人の存在に気付くための学年探検
- ・働いている人に出会い、人柄・工夫・思いを知るためのグループ探検
- ・探検先で出会った人と繰り返し会い、交流する中で地域のよさを再確認できるグループ探検

ふれあい

- ・地域の場所や人とふれあい、町への関心を高めるためのマップ作り
- ・働いている人や生活している人とふれあい、「すごいな」「知らなかった」「すてきだな」という思いをもつためのグループ探検
- ・学年内交流で町の「すてき」を伝え合う中で、改めて「町」のよさを実感できる「町のすてき交流会」

まなびあい

- ・友達と自分の生活圏を紹介しあうことで学び合い、「町のすてき」に気付き、探検への意欲をもつためのマップ作り
- ・探検で気付いたことを伝える中で学び合い、探検した場所の「すてき」をグループで共有するための振り返りタイム
- ・探検で知った地域の「すてき」を他のグループやクラスに伝える中で学び合い、町の魅力やその環境で過ごせる喜びを味わうための「町のすてき交流会」

生活科の見方・考え方を生かす学びの姿

本単元では、身近な地域に関わる中で、そこで働く人々の思いや願いにふれ、それらが自分とどのように関わっているのかという視点をもつことが大切であると考え。そのために、町探検とその後の気付きの共有を繰り返し行う中で「2つの場所を見に行っただけ、働く時間も人数も違ったね。」と比較し、「来てくれる人のために、朝早くから働いているんだね。」と関連付けることで、探検先の人との関わりを深めていきたい。町探検後には、探検で発見した町のすてきを伝える場として「町のすてき発表会」を行う。発表会では、子供同士で体験したり情報交換をしたりする時間を設ける。体験の中で、「細かい作業だけど、試しにやってみよう。」と試行したり、「できるようになるまで、何年も練習したのかな。」と予測したりしながら、地域の人々の工夫や努力に迫っていき考えている。そして体験を通して感動したことや喜びを表現する中で、町のよさを実感し、すてきな町の一員として過ごしている自分の生活についても考えさせていきたい。



育みたい力

<資質・能力>

- A 諸感覚をはたらせて感じ・気付き・理解する力
- B 地域の一員として過ごす自分について考え、表現する力
- C 地域の人や友達と主体的に関わろうとする力

<生活上必要な習慣・技能>

- ・施設や公共の場所のルールやマナーを守る。
- ・時間を守って行動する。
- ・適切な挨拶や言葉遣いをする。

3 単元の目標

地域を探検し、様々な人や場所と関わることを通して、地域で生活している人々や様々な場所との関わりについて考えることができ、自分たちの生活は、地域の人々や場所と関わりをもっていることや地域のよさに気付くとともに、親しみや愛着をもって人々に接したり、自分の生活を広げようとしたりすることができるようにする。

4 単元の観点別評価規準

	A知識・技能	B思考力・判断力・表現力	C主体的に学習に取り組む態度
単元における評価規準	○自分たちの生活は、地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所と関わりをもっていることが分かり、地域のよさに気付いたり、公共物や公共施設はみんなのものであることや、そこにはそれを支えている人がいることが分かり、それらと自分の関わりに気付いたりしている。	○地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所と適切に関わることや、安全に生活すること、地域にはみんなですべてがあることや、それらを支えている人がいることについて考え、それを表現している。	○地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所に親しみや愛着をもって関わり、安全に楽しく生活しようとするとともに、公共物や公共施設、それを支えている人々に関心を持ち、公共物や公共施設を大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとしている。
小単元1		(1) お気に入りの場所について、通学路マップにかいている。	(1) 身近な地域のことに興味を持ち、お気に入りの場所を見付けようとしている。
小単元2		(2) 探検した場所で見付けたことや思ったことを、カードにかいている。	(2) 町を探検し、いろいろなものを見付けようという意欲をもっている。
小単元3	(1) 町を探検して、今まで知らなかったことに気付いている。	(2) 探検した場所で見付けたことや思ったことを、カードにかいている。	(3) 自分のめあてをもって探検し、見付けたりたずねたりしようとしている。
小単元4	(2) 町探検に出かけて、新たなことに気付いている。	(3) 探検した場所で見付けた「町のすてき」を伝えていく。	(4) 友達との交流を通して、町探検への意欲を高めている。
小単元5	(3) 友達との交流で、町にはいろいろな「すてき」があることに気付いている。	(4) 自分の見付けた「すてき」を絵や言葉で表している。	(5) 見付けた「すてき」を分かりやすく発表し、興味をもって友達の発表を聞こうとしている。

5 指導計画(26時間扱い)

小単元 (時数)	主な学習活動と内容	教師の働きかけ (○)	評価 (☆)
一 町にふれる ③	<p>【小単元の目標】自分の住む町への関心を高めることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家から学校までの道の中でお気に入りの場所やもの・人を見付け、通学路マップにかく。(常時) ・マップを見せながら紹介し合う。(1) ・友達と情報交換をしながら学区地図を作る。(1) ・友達のお気に入りの聞き、それがどこにあるのか学区地図で確認することで、町にはいろいろなところがあることに興味をもつ。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○通学路マップを作る際には、登下校中に見つけてくるものの視点を明確にするため、具体例を挙げて声をかける。 ○マップにかいたものを説明しながら紹介できるよう、伝え合い方を全体で確認する。 ○いろいろな場所の写真を提示しながら、イメージできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆身近な地域のことに関心をもち、お気に入りの場所を見付けようとしている。(主) ☆お気に入りの場所について、通学路マップにかいている。(思)
二 町のようすをつかむ ③	<p>【小単元の目標】町を探検し、いろいろな町の様子に気付くことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年で町を探検し、気になることや、もっと知りたいことを見付ける。(2) ・探検で見付けたことを発見カードにかき、伝え合う。(国語1) ・もっと詳しく知りたい場所を決める。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○探検しながら施設や店の名前、おおまかな説明をして興味をもてるようにする。 ○探検した場所を振り返れるよう、学区地図を掲示する。 ○探検で見てきた施設や店を一覧にし、多くの選択肢の中から行きたい場所を選べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆町を探検し、いろいろなものを見付けようという意欲をもっている。(主) ☆探検した場所で見付けたことや思ったことを、カードにかいている。(思)
三 町とかかわる・かかわりをふかめる ⑥	<p>【小単元の目標】自分のめあてをもって町探検をし、町の様子や町の人の思いに気付き、もっと探検したいという意欲を高めることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町探検で行きたい場所を決め、どのようなところを見てくるのか、質問内容はどうかをグループで考える。(2) ・計画に従って探検し、気付いたことを探検シートにかく。(2) ・探検シートの内容を整理し、グループ内で共有する。(1) ・グループごとにYチャートを見せながら紹介する。聞く側は、知りたいことや気になる点を質問する。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○希望をもとに3～4人のグループを組む。 ○質問内容を考える際、「人・もの・工夫」の視点で考えるよう声をかける。 ○事前に探検シートに質問内容を書き込み、探検時すぐメモを書けるようにする。 ○探検時には学習ボランティアの方に付き添ってもらい、安全に気を付けて探検できるように配慮する。 ○発見したことを書いたカードを、「人・もの・工夫」にわけて整理できるよう、各グループにYチャートを用意する。 ○質問内容を次時の探検で生かせるよう、児童から出た発言を板書に残していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分のめあてをもって探検し、見付けたたりたずねたりしようとしている。(主) ☆探検した場所で見付けたことや思ったことを、カードにかいている。(思) ☆探検した場所で見付けた「町のすてき」を伝えていく。(思) ☆町を探検して、今まで知らなかったことに気付いている。(知) ☆友達との交流を通して、町探検への意欲を高めている。(主)

<p>四</p> <p>もつと、町とかかわる・かかわりをふかめる④</p>	<p>【小単元の目標】二回目の町探検を通して気付いたことを振り返り、これからの町との関わりについて考えることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達からの質問を参考に、質問内容や探検の視点を決める。(1) ・計画に従って、探検し、気付いたことを探検シートにかく。(2) ・探検シートの内容を整理し、グループ内で共有する。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の内容を思い出せるよう、前時の板書を紙に書いて掲示する。 ○事前に探検シートに質問内容や見てくるところを書かせ、探検時には簡単なメモだけ書けるようにする。 ○探検時には学習ボランティアの方に付き添ってもらい、安全に気を付けて探検できるように配慮する。 ○前時で作成したYチャートに、新たな発見を加えていけるよう用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆友達との交流を通して、町探検への意欲を高めている。(主) ☆自分のめあてをもって探検し、見付けたらずねたりしようとしている。(主) ☆探検した場所で見つけたことや思ったことを、カードにかいている。(思) ☆町探検に出かけて、新たなことに気付いている。(知) ☆探検した場所で見つけた「町のすてき」を伝えている。(思)
<p>五</p> <p>町のよさをひろめる⑩</p>	<p>【小単元の目標】探検で見つけた町のよさを工夫して表現し、伝えることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探検した場所や人のよさを、みんなに伝えるための方法を知る。(1) ・交流会に向けて準備をする。(3) ・学年内で「町のすてき交流会」をする。(1) 本時 ・交流会の振り返りをする。(1) ・探検でお世話になった方に招待状を書く。(国語1) ・発表会に向けて準備をする。(2) ・地域の方へ「町のすてき発表会」をする。(1) ・発表会の振り返りをする。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○探検で見つけた「町のすてき」を、グループで一枚の新聞にまとめていくための見通しをもたせる。 ○探検で自分が感じた感動を相手に伝えるためには、どのような方法があるか、グループで考える場を設ける。 ○グループ全員で協力できるよう、繰り返し進捗状況を確認する。 ○発表の準備が自己満足にならないよう、常に伝える相手を意識させる。 ○発表時間を二回設け、話し手は聞き手にわかりやすく、聞き手は話し手を見て真剣に聞くことを確認する。 ○発表の中で実際に体験したり質問したりすることで、町のよさを実感できるようにする。 ○グループ全員で協力できるよう繰り返し進捗状況を確認する。 ○発表の準備が自己満足にならないよう、常に伝える相手を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分の見付けた「すてき」を絵や言葉で表している。(思) ☆友達との交流で、町にはいろいろな「すてき」があることに気付いている。(知) ☆自分の見付けた「すてき」を絵や言葉で表している。(思) ☆見つけた「すてき」を分かりやすく発表し、興味をもって友達を発表を聞こうとしている。(主)

6 視点について

〈視点1〉学習意欲を喚起する手立ての工夫

【子供の思いや願いを大切にしたい出会いの工夫】

子供たちは自分の通学路を覚え正しく登下校できるようになり、放課後には友達と約束をして公園や互いの家で遊ぶことが増えてきた。友達と遊ぶ中で、少しずつ学区内にお気に入りの場所ができたり、家からお気に入りの場所までの道のりを覚えたりし、一人一人の活動範囲が広がってきている。ここでは改めて、普段何気なく登校している通学路に目を向け、通学路マップや学区地図の作成をすることで様々な地域の特徴に気付かせたい。同時に、学区にはセーフティーウォッチャーの方々が登下校を見守ってくれていたり、子ども110番の家も多数点在したりするので、身近な人との関わりや地域の安全にも目を向けさせていく。これらの活動を通して、「会って話を聞いてみたい。」「実際に行ってみよう。」「という思いが膨らんでいくだろう。自分の会ってみたい人に会いに行ける、行ってみたい施設やお店に行けるという楽しみをもつことで、より地域の人やものに出会いたいという意欲を高められると考える。

子供たちの意欲が高まったところで、町へ探検に行く。最初は学年で歩き、町に住む人や施設、お店について知る。次に、行ってみたいところへグループで探検に行く。子供たちは、町の人と話をしていく中で、その人の人柄に触れ、工夫や努力について知ることになるだろう。相手が自分たちの想像以上に努力していることを知ったり、その人にしか出来ない熟練した技を見たりすることで、子供たちは純粋に「すごい」と思い、「感動」や「喜び」を味わえると考えている。

探検後に一人一人の気付きを学級で共有し、互いに感想を伝えたり質問したりし合う中で、「もう一度会いたい。」「さらに知りたい。」という思いが強まるだろう。そこで、その思いを大切にしながら、もう一度探検に行く機会を設ける。町の人と繰り返しふれあい、そのよさを再確認していく活動を通して、子供たちは地域の人と仲良くなり、同時に町へ親しみや愛着をもてるようになっていけると考えられる。

子供たちと町の人との関わりを大切にするために、町探検で出会った人（店や施設の代表者・セーフティーウォッチャーさん）をお呼びし、「町のすてきアドバイザー」として、子供たちの気付きや疑問にコメントやアドバイスをさせていただく場を設ける。町探検に行くだけでなく、探検後に今度は「学校に町の人が会いに来てくれる」ことで、子供たちは喜び、より一層学習への意欲を高めることに繋がられると考える。このように、子供たちと町の人が双方向のやりとりをできるようにしていくことで、町探検後の普段の生活でも交流し続けられるようにしていきたい。

【学習への意欲を持続させる振り返りの工夫】

友達との気付きの共有の中で芽生えた自分の思いや願いを表出できるように、学習のまとめの時間を使って振り返りカードを書かせ、その時間に発見したことや疑問に思ったこと、感想などを自由に表現できるようにしたい。カードは、罫線だけのものを用意し、探検での気付きを文章で書いていけるようにする。その際「もっと聞きたい。」「もう一度探検して確かめたい。」という思いを大切にしていく。この時期の子供には、自分を客観視して考えることは難しいため、振り返りカードには、自分の気持ちを表す「顔マーク（笑顔・普通・困り顔）」を入れ、そこに色を塗って自己判断できるようにしたい。毎時間同じことを繰り返すことで、振り返りカードを見返したときに、自分の気持ちの変容に気付くことができる。また、教師からのコメント欄を設け、子供の満足感には寄り添い、不安感にはアドバイスを、新たな気付きには称賛を伝える手立てをし、次回の学習への意欲付けにもつながりたい。

〈視点2〉問題解決に向けた思考力を育む指導の工夫

【互いの知識を関連付ける指導の工夫】

春に公園探検に行った際、学校から公園を歩き来する中で動植物の変化に気付いたり、公共施設や

店について友達に紹介したりするなど、子供たちの地域への関心は高く、知識もあることが分かる。また、地域が毎年主催する綱引き大会や夏の夕涼み会、神社の祭りなどの行事に参加しているなど、学校以外の場所で人との関わりをもっている。そこで、自分たちの作成した通学路マップを友達と紹介し合う活動を行う。ここでは、自分の通学路と自分とは方向の違う通学路の様子を比べたり、同じ通学路を通っていても自分とは異なる書き込みに目を向けたりすることで、自分の生活圏外についても興味をもっていく。また、常時活動として、通学路で見つけた気付きをカードにかいて友達に知らせたり、友達のカードから新たな発見をしたりできる場として、掲示板を利用する。それにより、自分の生活している地域への関心をより深めていきたい。このように、子供たちが互いの知識を繋ぎ合わせていくことで、今まで知っていたようで実は知らなかった地域のよさに気付くことができる。そして、そのよさを「もっと知りたい。」という思いで町探検に臨むことで、子供たちの気付きは深まっていくと考えられる。さらに、町探検を繰り返し行う中で、親しみや愛着をもつ人や場所が増え、「〇〇さんに町で会えたら、次は自分から挨拶をしてみよう。」「友達が町探検で紹介していたお店に、今度家族と一緒に行ってみたいな。」などのように、地域が安心して生活できる場と感じられるようにしていきたい。

【伝え合い交流する中で思考を深める手立ての工夫】

町探検では、探検したい場所ごとにグループをつくり、グループ内のメンバーで協力して探検に行くこととする。探検先での質問内容は、最初一人で考え、その後グループ内で練り合う時間をとることで、新たな考えが生まれたり、今までもっていた考えが深まったりすると考える。その際、施設やお店の立地、取り扱っているもの、そこで働いている人や工夫していることなど、様々な視点をもたせたい。町探検での質問の回答は探検シートに書きとめ、学校に帰ってきてから内容を整理する。その際、Yチャートを利用し、「人・もの・工夫」の3つの視点で分類しながら、子供たちの気付きを共有する。さらに、3つの視点を関連づけることで「町のすてき」という共通点を見いだせると考えている。Yチャートという思考ツールを用いることで、一人一人の考えを可視化し整理していきたい。グループごとに作成したYチャートは教室内に掲示し、他のグループの様子を知ったり、参考にしたりできるような場を設けていく。

行先を重視してグループ編成をするため、一つのグループ内に学び合いに苦手意識をもつ子供たちが集まる可能性もある。そこで、普段から子供たち同士のやり取りが活発になるよう、他教科においても教師が促進役を務めたり、進んで交流する機会を設けたりしていきたい。

町探検後には、探検で発見したり体験したりしたことを友達に伝えるために「町のすてき交流会」を行う。交流会前半では、探検したグループごとに1枚の新聞を作成し、発表する。表現方法として、言葉、絵、動作、劇化などを取り入れる。ニュースキャスターのように発表したり、ペープサートやクイズを交えて発表したりすることで、話し手も聞き手も意欲的に関わり、双方向のやりとりが行われるようにしていきたい。交流会後半では、自分が探検していないところの様子をただ聞くだけでなく、子供が主体となり実際に体験ができる場を設ける。自分が探検先で体験してきたことや見てきたことを交流会で再現できるように、発表内容や体験方法を試行錯誤しながら準備する時間を多く設けたい。その中で「地域の人になりきって伝えたい。」「素敵な〇〇さんに近付きたい。」という子供の思いや願いを尊重することで、探検先の方の人柄や技のすごさ、工夫や努力がより聞き手に伝わると考えている。子供たちは体験に熱中し没頭し、活動の中で学び合い、新たな発見をする中で、それらを自分の言葉で表現したいと思うようになるだろう。伝え合い交流する中で、一人の発見が全体で共有されたり、お互いの情報を関係付けたりすることができ、子供たち一人一人の学びが深まっていくと考えている。

7 本時の指導

(1) 目標



伝え合い交流する活動を通して、地域の方の工夫や思いを知り、魅力を味わい、地域により親しみや愛着をもつことができるようにする。

(2) この時間の目指す子供の姿

○話し手は、探検先の魅力を新聞で紹介し、地域の人になりきって「町のすてき」を伝える。

○聞き手は、自分の探検先以外の人のおよさや、工夫していることを知り、町にはいろいろな「すてき」があることに気付く。

(3) 展開 (21 / 26)

時間	学習活動と内容	教師の働きかけ (○) 評価 (☆)
0	1 前時までの振り返りをし、本時の課題を確認する。 ・探検したことを思い出す。 ・自分の思いや願いをもって交流会に臨む。	○「町のすてき交流会」の流れを確認できるように、タイムテーブルを見せながら確認する。 ○町探検で出会ったすてきな人になりきって話ができるように声をかける。
	友だちとこうりゅうして「町のすてき」をみんなにひろめよう。	
4	2 「町のすてきアドバイザー」の方の紹介を聞き、挨拶をする。	
5	3 「町のすてき交流会」をする。 【前半：発表】グループで1枚作成した新聞をもとに「町のすてき」を発表する。 【後半：体験】お店の人になりきって体験ができる場で交流しながら、「町のすてき」を伝え合う。 ・2年3組が話し手で、2年4組が聞き手。 ・各グループで発表や体験の準備をし、聞いてくれる人に挨拶をしてから交流会を始める。 ・友達と体験を通して会話しながら、交流を深める。 ・「町のすてきアドバイザー」に質問したり、実演してもらったりしながら、交流を深める。	○2年3組の子供には、自分の発表する場に移動し、新聞や指し棒の準備をするよう声をかける。 ○2年4組の子供には、自分の聞くグループの場所を確認させ、何も持たずに歩いて移動するように声をかける。 ○各グループを回り、積極的に関われるような声かけを工夫する。 ○西千葉交番グループでは、具体的にどのようなものを使って人々を守っているのか、興味をもてるような声かけをする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">西千葉交番グループ</p> <p>【すてき発見タイム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察官の服や持ち物を身に着けてみる ・さすまたや警棒の使い方を知る </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">話し手</p>  <p>交番で働いている人は、町で困っている人のために夜遅くまで働いているんだよ。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">聞き手</p> <p>だから私たちは安心して過ごせるんだね。うれしいな。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">消防署グループ</p> <p>【すてき発見タイム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防の服の特徴や機能を知り、重さを体験する ・トレーニングの種類を聞きやってみる </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">話し手</p>  <p>火事の時にはすぐに着替えるための工夫をしているんだよ。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">聞き手</p> <p>町の人を火事から助けるために、毎日いろんな訓練をしているんだね。ぼくにはまねできないな。</p> </div> </div>	
		○消防署グループでは、日々の訓練はどのようなことをしているのか、その訓練がどのように地域の人たちを守ることにつながっているのかを考えられるような声かけをする。

黒砂公民館グループ

【すてき発見タイム】

- ・公民館で実施している活動を体験する
太極拳、ヨガ、はがき絵、和太鼓、そば打ちなど



公民館にいくと、こんな楽しい体験ができるんだよ。

地域の方みたいに上手になりたいな。今度お家の人と一緒に行って、もっとやってみたいな。

希林グループ

【すてき発見タイム】

- ・大きな中華鍋をふってみる
- ・複数の麺の違いを見比べる



おいしいラーメンを食べてもらうために、麺の種類を変えているんだよ。

こんな大きいフライパンで作ってるなんて、重たすぎて全然動かせないよ。お店の方はすごいなあ。

20

4 話し手と聞き手を交代する。

- ・2年4組が話し手で、2年3組が聞き手。

木村商店グループ

【すてき発見タイム】

- ・新鮮な野菜や果物の見分け方を知る
- ・服装で工夫しているところを聞き身に着けてみる



新鮮な野菜の見分け方を教えてあげるよ。

秋になると焼き芋のいい香りがするんだよ。どうやって作っているのか聞いてみたいな。

竹久サイクルグループ

【すてき発見タイム】

- ・自転車の修理の仕方を知る
- ・空気入れを体験する



簡単にやってみように見えたけど、壊れた自転車を直すのは大変なことなんだよ。

これからは自分の自転車をもっと大切にしたいな。汚れたところもきれいにしたいな。

ドドグループ

【すてき発見タイム】

- ・パンに使用する原材料を知る
- ・パンの陳列方法を考え、並べてみる



地域の人においしいパンを食べってもらうために、材料にこだわっているんだよ。

パンになる前はこんなに柔らかいんだ。粘土みたいだけど、きれいな形にするのは難しいな。

○公民館グループでは、実際の体験教室について詳しく聞けるようにする。どのような体験ができるのか、どのような部屋を使っているのかに興味をもてるように声をかける。

○希林グループでは、ラーメンを作る調理器具や材料の工夫について詳しく聞けるようにする。

○2年4組の子供には、自分の発表する場に移動し、新聞や指し棒の準備をするよう声をかける。

○2年3組の子供には、自分の聞くグループの場所を確認させ、何も持たずに歩いて移動するように声をかける。

○木村商店グループでは、商品を新鮮な状態でお客さんに届ける工夫について興味をもてるようにする。

○竹久グループでは、自転車は簡単には修理することができないことに目を向けられるようにする。

○ドドグループでは、おいしさの秘訣や店主のこだわりについて興味をもったり、おいしいパンを店頭に出すための努力について考えられるように声をかける。

セブンイレブングループ

【すてき発見タイム】

- ・商品陳列の工夫を知り、並べてみる
- 見やすさ、棚の工夫、対象に合わせた工夫



注文したら届けてくれるサービスがあるよ。お店まで買いに行けない人のための工夫なんだ。

いろいろなものが揃っているから便利だね。コンビニから遠い家の人も助かるね。

- 3 5 5 振り返りカードを書く。
・交流会での気づきや感想を書く。

- 4 2 6 全体場で個人の気づきや感想を発表する。



ぼくが探検したところ以外にも、町のみんなのために働く素敵な人が、たくさんいることを初めて知りました。こんなにすごい人達がいる町で生活できることを、とてもうれしく思いました。



町のみんなのために、お仕事をすることがわかりました。わたしはこれから、町の人に挨拶したり、感謝の気持ちをもったりしながら過ごしたいと思いました。

つぎは、ちいきの方やおうちの人に「町のすてき」をしょうかいしたいな。

- 7 全体で集まり、「町のすてきアドバイザー」の方に挨拶をする。

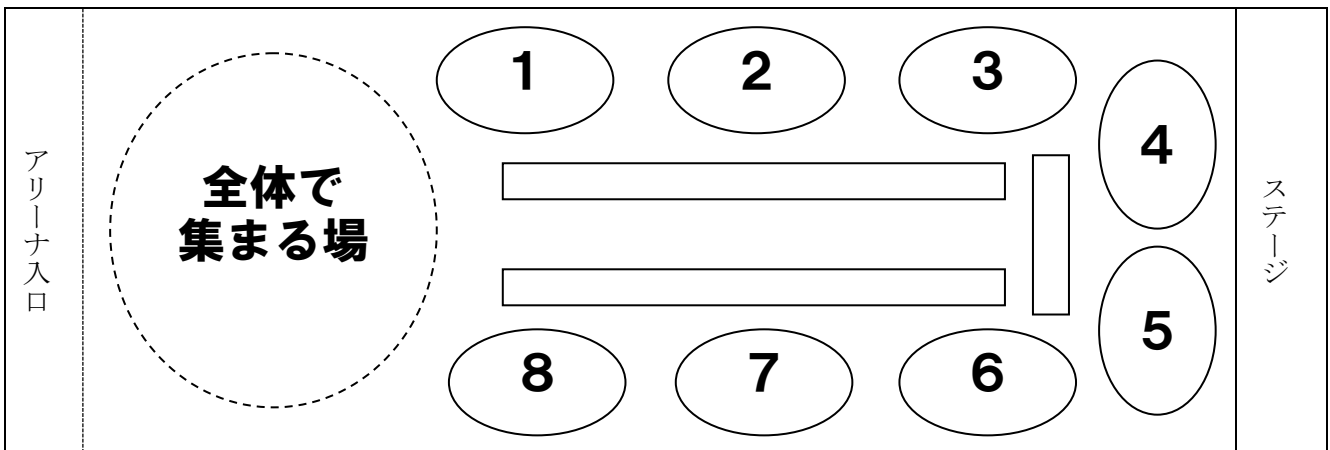
4 5

○セブンイレブングループでは、様々な商品を扱う理由や、いろんな立場の人に向けたサービスについて興味をもてるような声かけをする。

☆友達との交流で、町にはいろいろな「すてき」があることに気付いている。**知**

- 時間になったら全体に向けて、振り返りをするよう声をかける。
- 体験後すぐの思いを書けるよう、振り返りカードを用意しておく。
- 振り返りカードは数種類用意し、自分の思いに合ったものを使用できるようにする。
- 振り返りカードは落ち着いて書けるように、机を用意する。
- 自分の発表内容だけでなく、友達の紹介した「町のすてき」に気付くことができた子供には称賛の言葉をかける。
- 振り返りカードに書いた内容を見て回りながら文章に線を引き、発表の場で自信をもって伝えられるようにする。

体験学習 場の例



アリーナ入口

ステージ